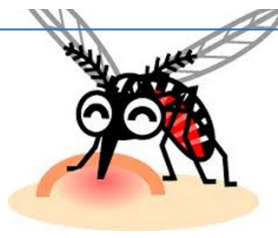


虫さされについて

令和6年7月15日発行

薬剤科

蚊に刺された時の対処法で間違っているのは？



- ①ぬり薬を塗る ②冷やす ③爪で強く十字をつける



かゆみが起こる仕組み



かゆみは、かゆみの神経が刺激されることによって起こります。不思議なことにかゆみの神経は外界と接する部分だけに起こります。例えば、皮膚、耳の中、目などではかゆみを感じますが、外界と接触していない心臓や胃や腸にはかゆみの神経がありませんので、かゆくはなりません。

虫に刺されて起こるかゆみは2つのアレルギー型反応で起こり、使用するお薬も異なります。

	即時型反応	遅延型反応
かゆくなる時間	さされてすぐ～数時間	さされて数時間から翌日にかけて
かゆみの原因	ヒスタミン	白血球から様々な物質が放出される
かゆみを止めるには	抗ヒスタミン薬	ステロイド成分

虫さされへの対処法

「かかない」ことが大切です。かくことでかゆみの原因物質がさらに放出されると言われています。何かに刺されたら、まずはこすらず、流水で洗いよく冷やし、軽症であれば市販の塗り薬で対応するのも良いでしょう。市販薬を使用するときは、用法用量を守って使用してください。また、虫刺され部分をかきむしったり、爪で強く十字でつけたりすると皮膚を傷つけてしまい、傷口からばい菌が入り感染症（とびひ）という病気になることがありますので注意してください。

かゆみや炎症がひどいときは、早めに医療機関を受診してください。